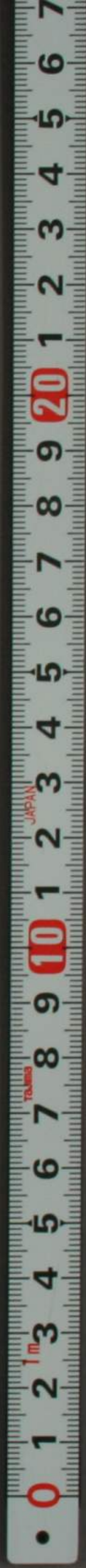


横濱開港見聞誌

中

特別
44
4230
5

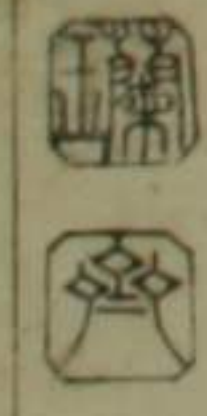


門凡生
號 4230
卷 5



是より五編の画圖并其設續卷より凡ハ魚獵山野に出得又ハ極北海の奥に至りてハ氷海夜國の渡海して氷山の羊海中の海馬を得る又ハ南天竺是をまじり印度國より大廣野多く此處を越るの旅人の駱駝を以て荷物を運送するの図ハ吾朝横濱を有る一夏より無るれども五ヶ國の異州より渡来る銅版石板を見る物にて其文ハ又新みき處を以ては細微の知らざる異州の文字に達する大先生も是は依て知べし卷中普く書あるといふ共是ハ横濱を見たり又ハ老人の新し聞きて其俗書物にて功満我滿の作意を用む元来無智の書あるとも渡来の物ハ普く集め此卷中み載んと欲せども次第第一大都の湊となり船来の物産も奇々妙々の細工あり微妙の織物あり珍敷美鳥あり面白き畜類をを段々と重きまづを心の目くらめを筆にうつらぬまゝの書ありハ

橋本玉蘭老夫



昭和三十年
二月十八日
橋本

あや
墨利
加州
の魚
を
獵
つ
る
釣
の
圖

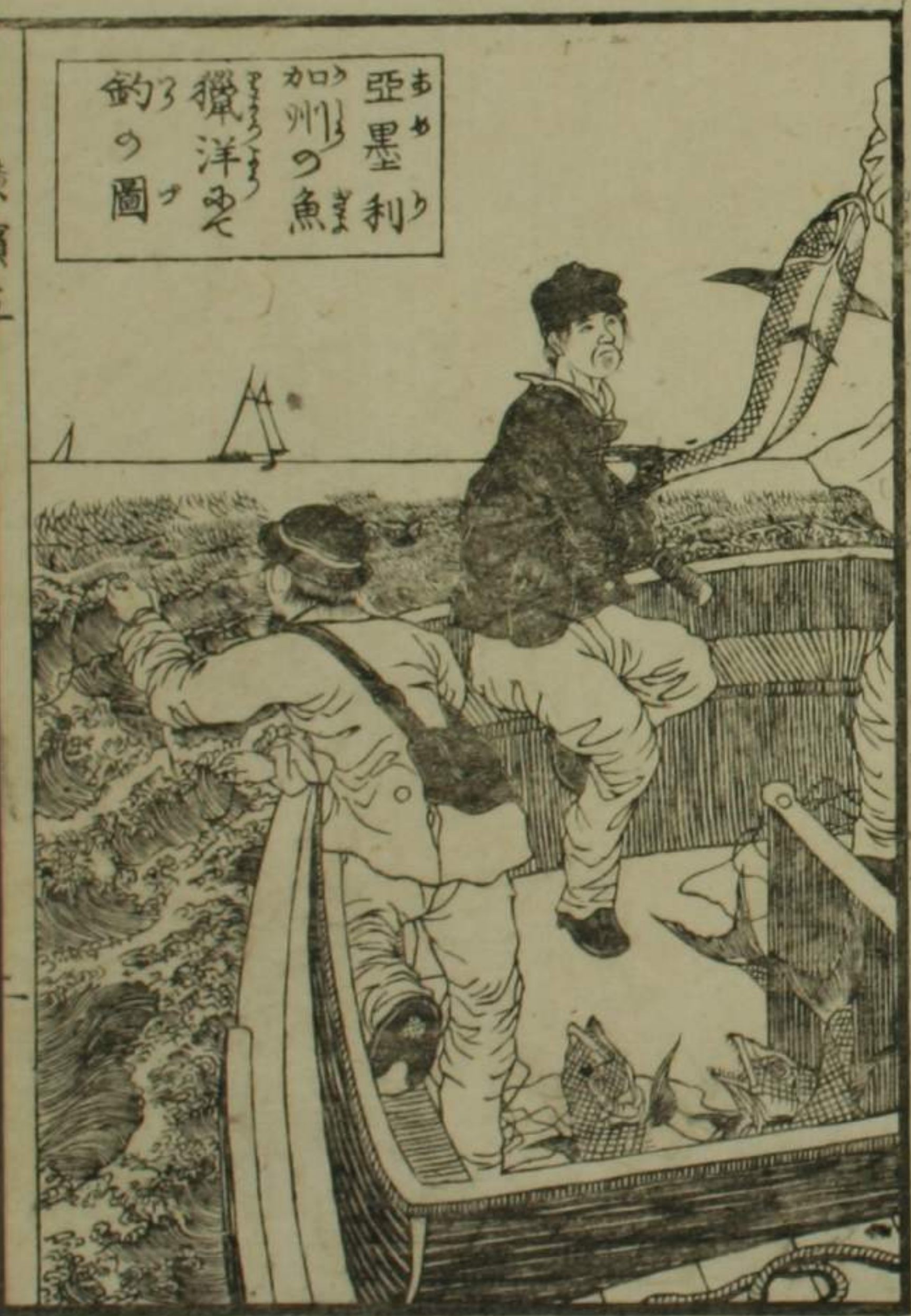
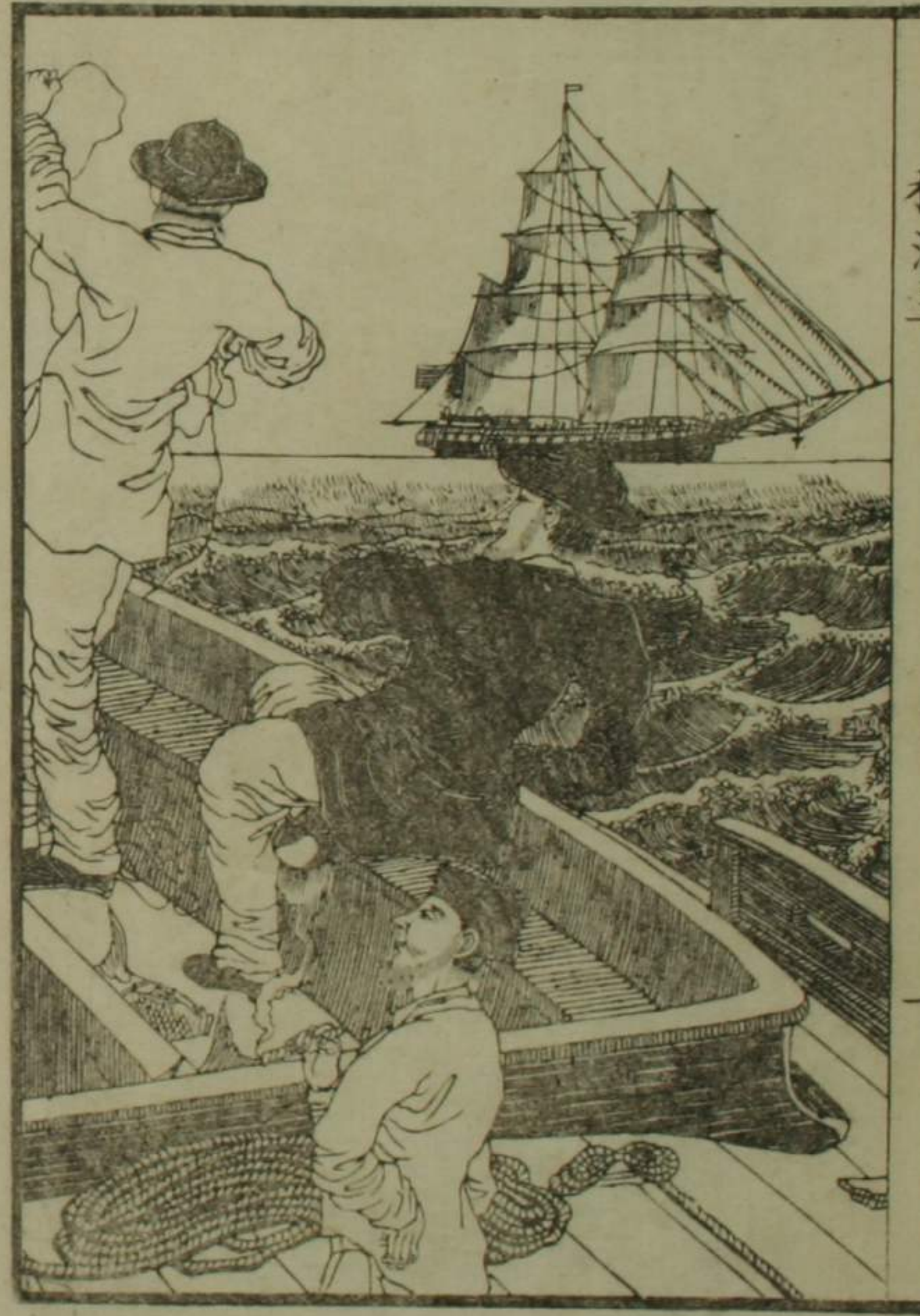
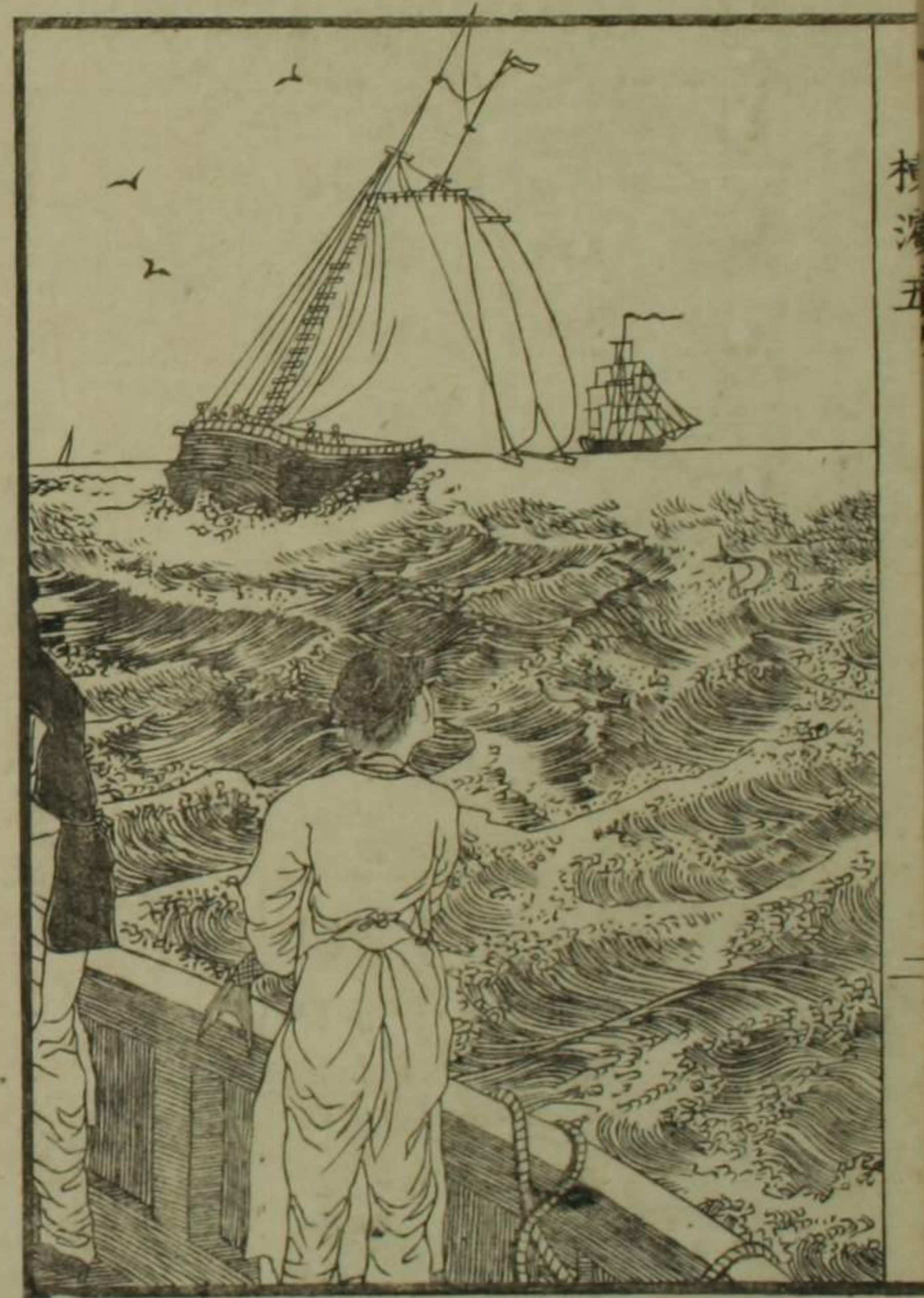


表
五



横
五



相海五

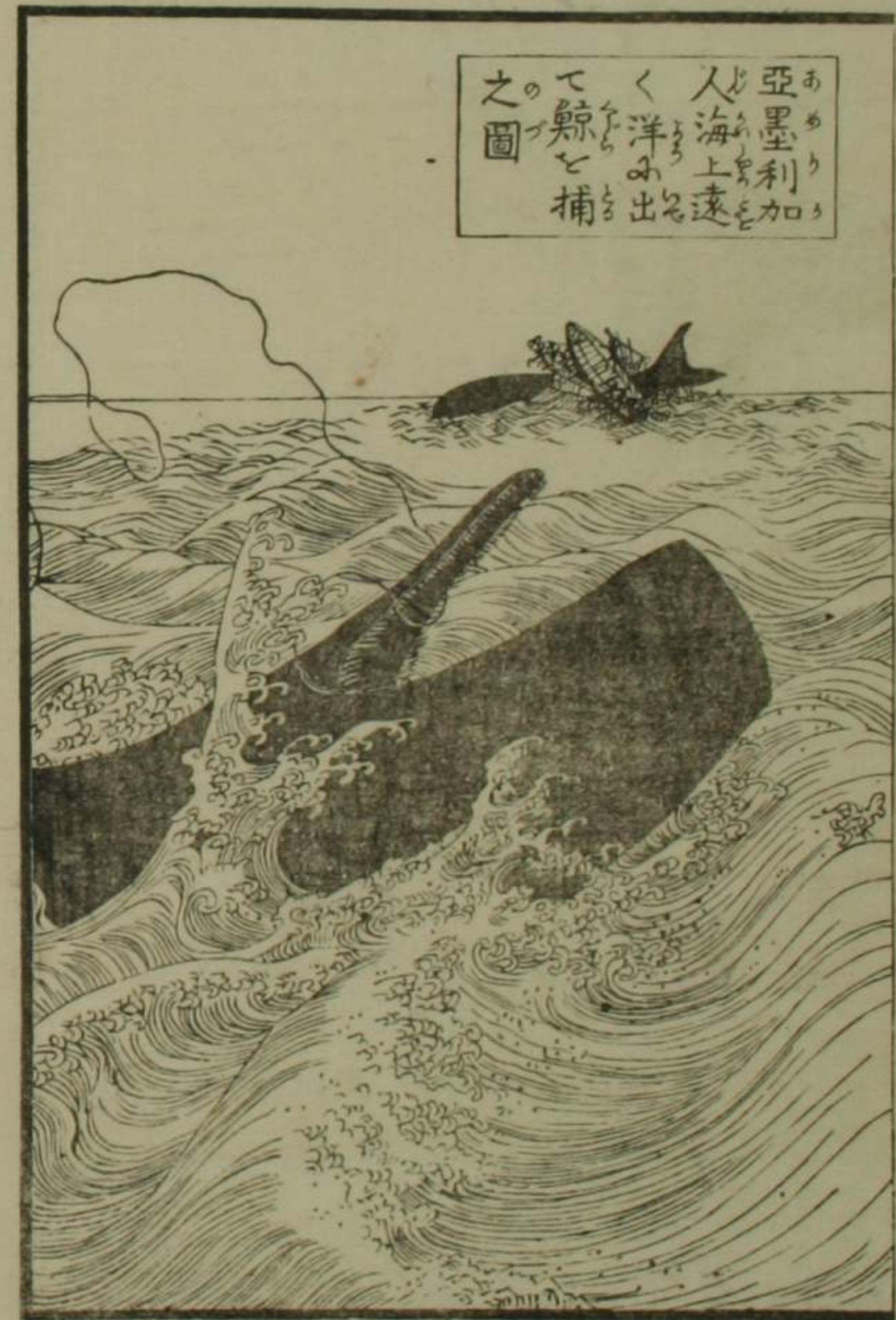
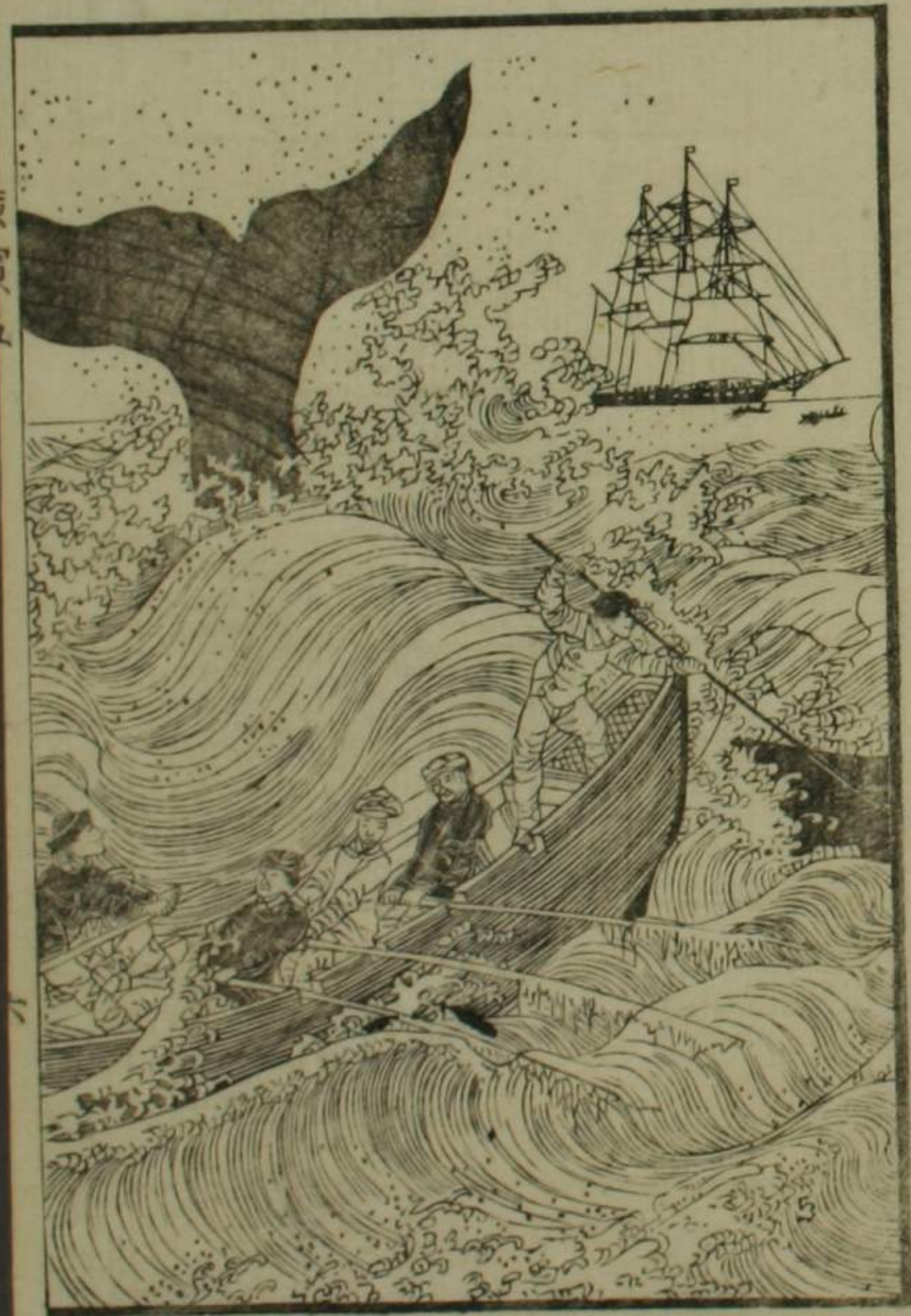


黄城上



亞墨利加の魚獵場
 より遠く山
 里の商馬
 を以て運送
 の圖

赤海五

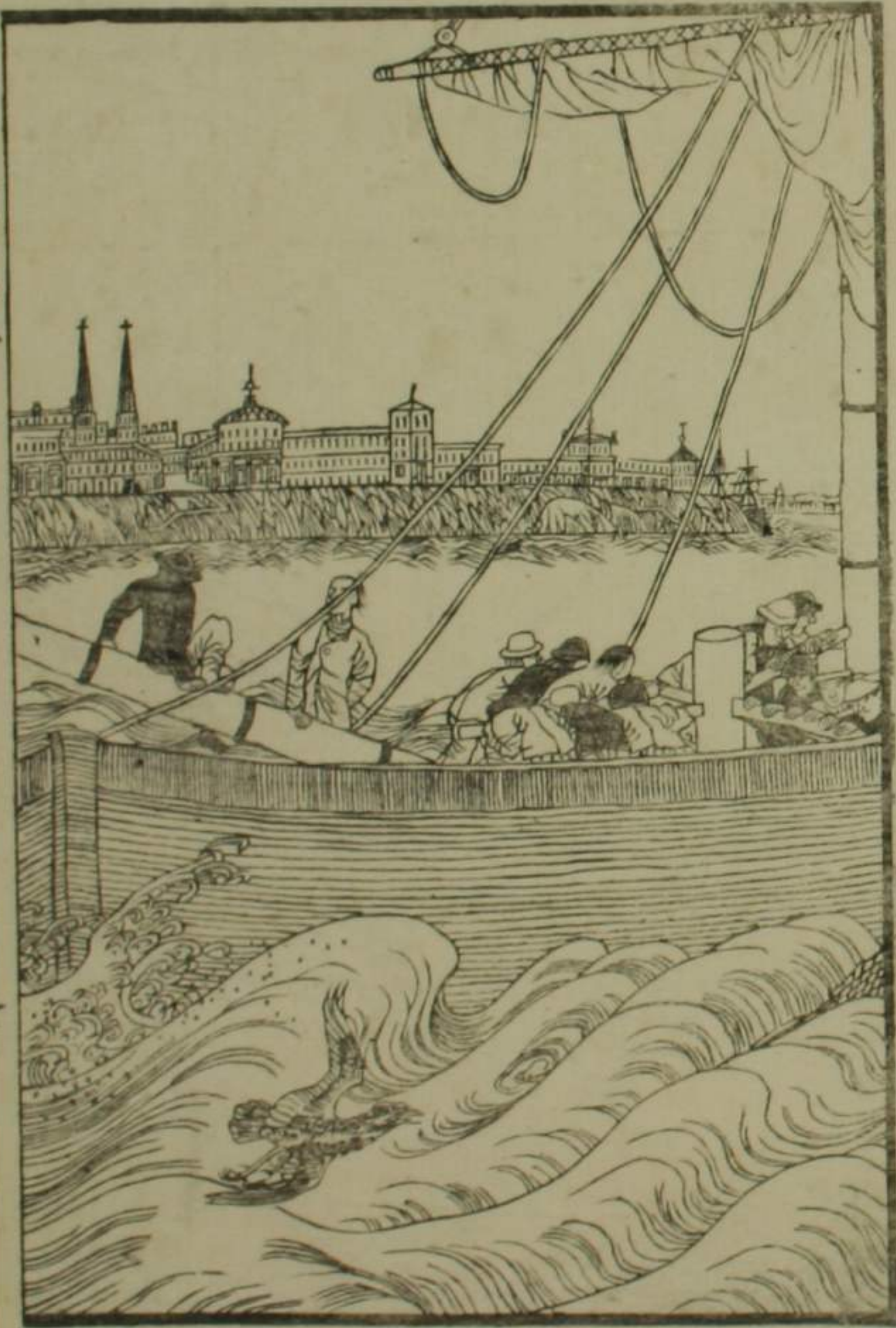


亞墨利加
 人海上遠
 く洋み出
 て鯨と捕
 の之圖

捕鯨
 五

五

黄真五



横濱五

此圖ハ阿蘭陀
の銅板繪を
寫し其本國
其本國の
禪師舟に乗
て洋に出る
網を引有
様あり



同横濱の
見ろ処王板油
繪の写し多
大虎出て大山
又ハ廣野ふ大
る山羊と舊校
喰ふの図

黄寅五



同横濱の
見ろ処王板油
繪の写し多
大虎出て大山
又ハ廣野ふ大
る山羊と舊校
喰ふの図



木匠五
...

横濱の西洋諸國の婦人集
 ま豆を以て是を
 みるまの
 圖あり



黄頁五



横濱五

九



あやうくくく
 亞墨利加國の婦人けりい
 ちんちん作ふ二面鏡をりめ
 合せ見る躰なり



木
 五





西洋諸国の内
 所其地一年
 の間冬の時
 土用の如く暑き
 中、大獅子
 生る是を討つ

西洋諸国の内
 所其地一年
 の間冬の時
 土用の如く暑き
 中、大獅子
 生る是を討つ



横濱五

十三

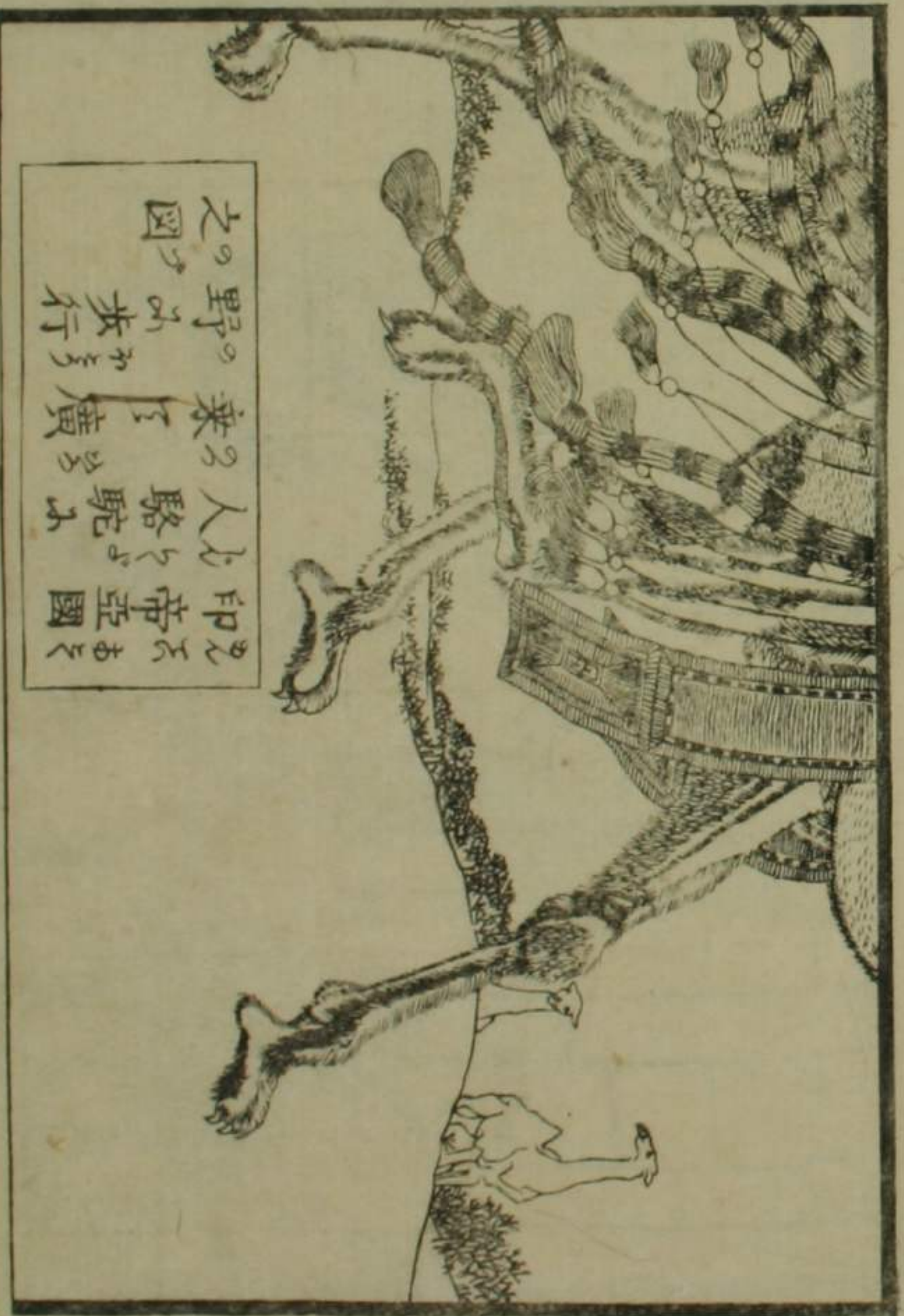


横濱五

十三

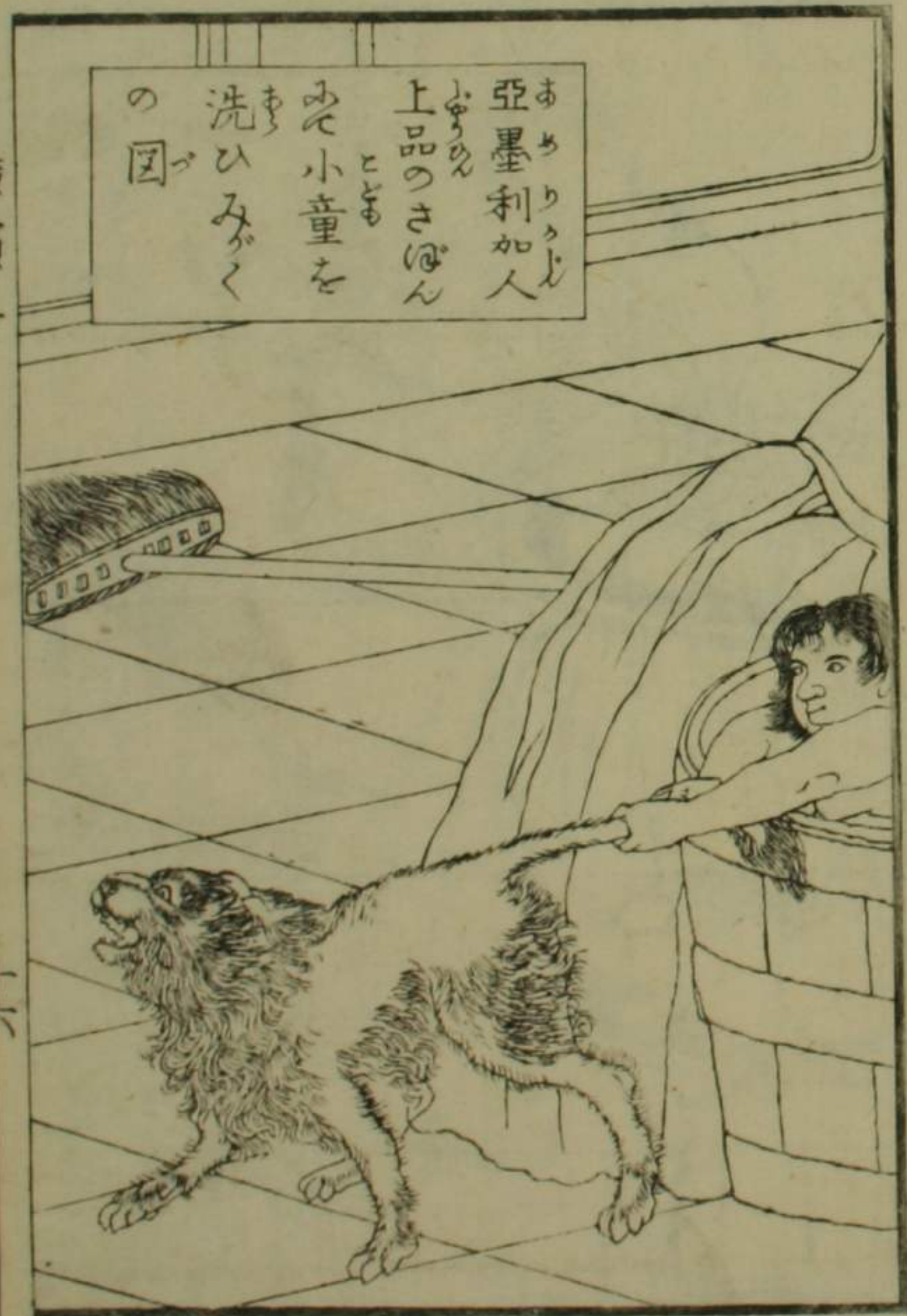
横濱五

十四



印度亞國
人駱駝
乘之廣
野之
圖

横濱五



木下五

亞墨利加
少木の实草
の实を賣の圖



初ふちる処ハ西洋諸国并亞墨利加其外諸島と魚を捕ふそのさま
吾日本諸方ゆて魚を捕有る事と同一手釣ゆて海上ふらうふおまハ又洋
ゆく網を巻上るも其捕る魚を籠ふつら馬といふみの長さ小
あつりのふつ小娘など賣あつらつら又亞墨利加ゆて鯨を捕ふ其肉
を喰ふふあつら油を煮るもそのさま海上海上此魚を見るやら獵
船其用意をその乗出と其間とらつらを処よりつら船を止め小舟
を下し鯨の近くふつら網を付方りつら打込引ハ大船のつら
且大船の上より大づなつらゆて鯨を大船の上へおまを引あが中へ仕
るゆれゆりゆ油を煮る其肉ハ海へおまを地方よりつら此海上ゆて
鯨を捕へんとておまひかゆ船の下より大鯨あつら出背とあがて此
小舟と高くおまひは尾とつらおまを小舟ハ鯨の背よりおまを落さる異
入ハ舟をさふまら付たるもゆて大波打きさ水けゆりつら上る中へつら

黄頁五

とまきま外に乗る小舟走りて是を助け又ハあふりくると又
外小舟より小舟を是を救ひつゝ多て鯨を大船に引寄せり
其ま銅板繪のつり方を写さる彼國の銅板又ハ當時流行の石
版のまきまの繪ハ見るに成るのまき鏡のまきくゝるのまきハ
其時の有様みりて又阿蘭陀本國の銅版のまきまの魚獵の
圖を写す海上の二船を双へ大網をりて水中に下し左右方の船
てまきまの網を引あけ魚を捕る船中の婦人の小兒をりて
あまのまきまの二入るを見ゆ此國の女人の獵船に乗て洋を
へ出ると見ゆ又横濱の見る処の王板油繪を見らふ二面あり一は大廣
野の大虎ありと出て山羊の太るを追うつあつて羊勞つとまきま
つまの倒れと見ゆ有るまきまの腹の真中あり付目とまきま
て是を喰ふの圖を見覺へ又横濱の虎を見らふ其まきまのまきま

繪卷五

十七

あゝ其まきまの巻の中画まき外一面の大虎山の上より首を長く上の
方へあけ左右の前足をひろげ後足を蹴上げ一ツまんふりくると
異人三人なり是を見てまきま逃れ去るその両方の樹立の中鉄
砲をりちかき居て其間程と来た時一度ふりちかき居てまきま
仕止んとまきまの圖あり是ハ其圖を思ひく出さる又山中ゆく豹を
追うりふ大なる谷川あり是ハあつてまきまの豹ハ一ツまきま此谷川を
飛鳥のまきまのまきま後より一人の異人鉄砲を向てわらふ圖ありまきま先
達て横濱渡来の豹江戸の諸人見るとまきま其圖を畧すまきま又
一種の銅版海馬の圖を見ら横濱のまきまのまきま此の方極奥の
まきま降つりく雪ハ氷りて山のまきま海面氷りて幾十里程
も陸とあり阿蘭陀大船此處より氷を打たれ氷を氷面の一筋
の川を作りて船をまきまを乗て其まきま陸より此所の人常穴の

繪卷五

入て居るある小一年の内一度日光此氷をさうてやうやくあうくあること
 あり其時此海中の海馬とり入りのあうく其まを前歯二本其長き
 夏見ゆきふ至る此歯を得んと異人まあふふやうとさしてつた止んと
 ままとも氷中其景のうつとあて見ゆ共得ると火いと云又繪み
 有処ハバテラの小舟氷をさす時分と見へ海面をのりまう小舟の先へ
 小山の出来たるごとく初の前歯とむね出しひよと出ると見て異人先ゆのり
 するハ鼻の先を合ならめて海馬の目の光りふびつらう有まらじらふ
 をと見てりつとさう出まらふも其又水中みむらう入と早くて是を
 得るとはじらふ又横濱ゆく婦人の集り七方四五寸位の箱のふふ
 あんちうの由との如きゆめあひく真中み鉄をりゆ棒をつた通し繪
 図み出し方如き手ゆひ成つて是をくくともりて豆を挽きあひゆ
 茶ふく湯ふをちちく用やうと云横濱の異人の娘自分もあひく

打洗五

十六

みてけりひみ姿見ふ向以其鏡の上よりあををちらうのさうのさうと
 さうゆを其先は九鏡の小形あひゆを糸を圓のまわつ下其中ふつと
 はしりゆ大鏡みうつを前後一眼みゆあひゆとまらゆのさうとあひゆ
 あき合鏡をさ此圓をわさあひゆ次の圓ハ自輪車ありさうのさう
 組糸をりゆ前の輪みまわさる腰のくげんみく車の其三向よりあひゆ
 さうとあひゆと糸を巻上るあひゆ又ゆるめさふ前の車をさうくゆくとハ
 自然と大車ゆがうゆと走ると最も早くくと小犬の付漆来りて
 との車とゆふゆあひゆ車の方より早く車小き作りあひゆ
 大軒一人乗あり手ぎひまうゆ奇麗な車あり多くハ女性乃
 乗べきゆめと見ゆ又一種の銅版を見るゆ獅子とゆゆと見へるゆ
 ちゆ一人草原の中小木のまがりゆ内み横まゆあひゆとゆめ居
 軒をあせゆ是は向ひる山ゆ獅子あひゆとゆめゆゆゆゆ容軒

黄宣五

を目くらまりてその豆をふき又胸中を前豆ゆてきるとき付まで
喰ひんとするき兼之生伏しく自方めひ置とろの犬をけりける
み此犬さつろ之飛やき獅子の後豆をねらひ喰付少しく肉をく切
き獅子いあしくいり犬の方を見くつ下喰又せんとあうくさ
埋伏しき異人鉄炮をとりて獅子の胸腹を打ぬるあふさ
て居さうし異人く持さ小筒をさうあし獅子のむさきた
打らば是ふまのま仕止ると又とも其前よりその多とあり居る人の
危きといそんさき此仕方最ゆんかのかのくちつた胆たぬの
あしくし心強あく秘此仕方多しとあひつて其次よ出た画
ハ天竺国亦印度とら其國ハ極あつて所あく大山多しといふ此地
み前ふあ獅子もい象駱駝多く生る其國王ハこのらくごみ
飾をうく是歩行の乗のものとまの拳中ふ画出たま王の乗べきの

アふわらまきまども下民ふあむ最ゆ身分高きりといふ王侯の乗
為ふ飾さる画圖あきも精密みて木板み写し七事の外午間わか
アとさの面白くもあるとあひ是を番まあし印度の王侯乗飾さるハ
然く象を用ゆるも横渡すの吐くあはふかす因ハ侯あつても下
ある身分の人と思つて此駱駝ハ一峯駱駝も又ハ二峯あるゆあり二峯
駱駝ハその脊肉高くニツ出さるといふあり一峯ハ其肉一ツありニツあり
方ハ最も飾をつるふあり多く是を用ゆるまといふ此の大廣
を連ぬくハ二ヶ月も又三ヶ月もあさややく人家あふあふなるその向
大原の内水のあふれ知らむ大いふ水ありける駱駝ハその水脈あるあを
く知るあふ足あを砂をうると是を知らま其野をふくあを見ふ果
し清水出ると閉さるふ此峯ふあまた又横濱みく渡来の象版
見て真写をといふ前編みあし印度人象を川中み入とあらふ

処み画さる異こま一是を畧まあやんとあめ二品あり一品は芝
 さあやんと下品あり亦上品のめあり此品はもつ桶ふ湯をを吾
 日本が行水の下く惣身とあやみ櫛をひのいどあめの手足指
 の先まを洗ひ負首筋り此品ふとあやみあやみ頭の毛を其中
 ををよりりて洗ひその後めてあやみ櫛のて作りその先頭上
 より足の先まを是てよりりて其後上品のあやみ水をを
 と右の櫛をひのいどあめひつてい又あやみの毛の中より惣身と洗ひ
 流まて敷度後ち髪あやみあやみて于かろはあり是は後洗
 するあやみの香ふふしあやみのあやみ吾日本よと葉入のあやみ粉
 の類あり品あり上品のあやみハ十三味茶種入と人最其香あやみ
 上品あり一品は下の物みてせんあやみと衣のあやみと洗ふ
 とた桶の中よりあやみ水あやみと洗ふ又其人身衣とのあやみ

毛色もつやわう其色茶色まは鼠白黒色まがらるあは生はつた
 是非もま一併あやみ亜墨利加人の眼玉毛りる鼻の形を日本人の異
 こま一西洋ハ多く鼻高く眼玉青色多一英吉利阿蘭陀の人みも
 毛色黒色あは少く横濱ふ渡来の内あはくは成見りる西洋ハ
 とも其人の長高いと伝へ未ても是又今横濱ふ多く渡来の人み
 見りる一様あは申さる西洋人みも小男あ中々ああは吾日本の
 車力船頭人豆のらち西洋と諸國の大あ男み上ふ立の大男あ
 鼻も高きあ異人の長高鼻高くといふあは渡来の商
 人の心あつみりと触り分と得りての上手あり吾日本ハ生はつた心
 いさあきまふ早く利を得んとあやみ有り今ハ横濱商人も
 異人の仕りのとくあはあやみて左右方同様の商方といふ異人
 菓子の実を賣あはる銅版の繪み見り處多くハ婦人の立る

とろみふひ七とろみ賣るも又ハ老女あぞの商入図ありその
 菓子とろみ置道具ありとの巻中木の半面み画く所の臺あり三重
 み作りさるあまは五六重みまを作らる一重一品みあると又とろみハ
 真中み手ろみありの又ハ其作り方の品多く此券み是を畧しと図を
 出さむ横濱み渡来の諸人そのまごハ異あまハ異人との入りのもの
 ありとれ又心中ヤキ一き処あまはらぐもかるとは本町やく小兒をい
 たる母と見へあちこちと遊びるうち此小兒乳のミミをみぬ大み泣い
 母ハまろーあまむとれゆく大い泣いてやまむ此時亜墨利加人三四人
 つまま来りしが此躰を見ても見世み行て二朱を當百み入る一本
 あまの折り百錢今通一とてあまあま見せ何やう唄のやう
 ありといへく小兒とる一其當百ハッ母みやとあまら我屋敷み
 歸りたる

